

感想文

平成 27 年 7 月 31 日(金)～8 月 1 日(土)

阿蘇シンポジウム感想文

片道約 4 時間かけて電車とバス 2 回を乗り継ぎ、初めて参加したこの阿蘇シンポジウムには、それだけの時間をかける意義があったと思います。今年のテーマは「幹細胞研究とその応用」、私の興味のある免疫分野とは少し異なりますが、幅広い可能性をもつ分野です。今回のプログラムでは、幹細胞そのものの研究、分化機構の解明、再生医療への応用、疾患の解明と治療法の探求と、基礎から医療応用へ繋がる一連の流れが見えました。特に再生医療への応用については、純粹に目的の「細胞」を分化させ、臓器を創り出すというアプローチだけでなく、むしろ間葉系細胞や血管内皮細胞と混ぜ合わせて分化させることで、目的の「臓器」の三次元的な構築を目指す、というアプローチがあることを知ることができ、今後研究対象を見る際に多角的に考えることの重要性も学びました。また同時に自身の知識の浅さを改めて感じ、より一層勉学に励みたいと思いました。

[生命科学科 3 年 中山鈴音]

シンポジウムを通して

まだ勉強の足りない部分が多く、知識不足の身ではありますが、まずは研究討論会というもの雰囲気味わうだけでも、と思い参加させていただきました。十分に理解を深められていない部分は多いですが、聞かせていただいた演題はどれも興味をそそられる、将来の発展が楽しみな内容ばかりでした。特に、谷口先生による iPS 細胞を用いての臓器創出についてのお話は、臨床研究を近々開始するとお聞きして、きちんと勉強をしてゆくゆくはその実験に参加してみたいと思いました。私はまだ自分の研究課題とする分野を決めかねているのですが「幹細胞」というテーマ一つを取ってみても研究対象はこんなにも多岐にわたるのだなと言うことに改めて驚かされました。来年の第 40 回には、もっと知識を蓄えて、幅広いテーマのお話を取りこぼしの無いようにしっかりと聞いていきたいと思います。

[生命科学科三年 岡部伊織]